

一般質問

クールビズの導入

板倉 一幸 議員
民主・市民ネット

問 政府の省エネ対策、地球温暖化の防止策の一環としてクールビズが始まったが、その効果も含めどう受け止めているか。また政府は、クールビズを国民運動として自治体への導入を呼びかけているが、函館市として導入を検討しているのであれば、実施に向けての判断時期と、その内容をお聞きしたい。

答 現在国は、地球温暖化防止の国民運動を推進し、ノーネクタイ・ノー上着の夏の軽装での勤務、クールビズ実施を呼びかけており、当市としても省エネ対策等から有効と考え、導入を検討している。導入の場合は、7月中旬と考えているが、市民への導入趣旨の周知、不快感を与えない服装のあり方等を整理し、早急に判断したい。(答弁者 市長・総務部長)



暑い夏には・・・

北海道新幹線着工の経済効果等

桶本 建郎 議員
はこだて市民クラブ

問 削減は、建設業界等にとって死活問題となつていく。この度、北海道新幹線が建設されることになり、地元企業からは、工事の受注や資材調達に対する期待が寄せられているが、当市経済への波及効果と地元企業の工事への参画に向けた取り組みについて伺いたい。

答 新青森・新函館間の建設による道内への推進し、ノーネクタイ・ノー上着の夏の軽装での勤務、クールビズ実施を呼びかけており、当市としても省エネ対策等から有効と考え、導入を検討している。導入の場合は、7月中旬と考えているが、市民への導入趣旨の周知、不快感を与えない服装のあり方等を整理し、早急に判断したい。(答弁者 市長・総務部長)



東北新幹線はやて

がん難民の認識とがん対策の現状

佐古 一夫 議員
市民自由クラブ

問 地域や病院による治療レベルの格差に

の経済波及効果は、建設投資額約2700億円、原材料等による消費需要増加などで4900億円と試算され、地域経済活性化と雇用の確保が期待される。これまでも鉄道・運輸機構に対し地元企業の幅広い参入を要請してきたが、今後も関係機関に積極的に働きかけていきたい。(答弁者 市長)

海の生態科学館と財政問題

高橋 佳大 議員
日本共産党

問 社会教育施設を市の一般財源で運営することが普通のあり方だとしても、その運営に要する費用が多額となる場合、他の分野の市民サービスが削られるのではないかと市民はとても心配している。海の生態科学館建設と市の財政問題については、ど

のように考えているのか伺いたい。
答 新たな事業への取り組みは、慎重に進める必要があり、市民生活の向上および地域の発展につながるものに投資していくことが行政の役割であると考えている。海の生態科学館の運営に要する経費についても、できるだけ財政負担の軽減に努め、他の分野での市民サービスの後退につながらないようにしていきたい。(答弁者 市長)

「中空土偶」の常設展示

樋口 廣文 議員
南かやべ議員団

問 南茅部地域には「中空土偶」や漆塗りの土器など貴重な遺物があり、今後も多数出土すると思われる。特に、「中空土偶」は地域にとつては、過去から未来にかけての文化的なシンボルであり、地域の特徴を生かすためにも地



中空土偶

元に恒常的に展示していくことが効果的と思うがどのように考えているか。
答 南茅部地域においては、遺跡の発掘調査と普及活動を行う、NPO法人が発足するなど、縄文文化発信の拠点づくりに向けて活動を展開しており、

大潤保育園の移転改修の進捗状況

齊藤 勝昭 議員
恵山議員団

問 大潤保育園は、空き校舎を活用し移転改修することとなっているが、現在移転計画の進捗



大潤保育園

「中空土偶」はそのシンボルの存在になっている。「中空土偶」の南茅部地域における恒常的な展示については、保存管理も含め、その適切なあり方を慎重に検討していきたい。(答弁者 教育長)

状況はどのようになっているのか。
答 あわせて年度途中からの移転ではなく、安全安心に子供を預けられる場所に移転・改修して、年度当初から新しい場所での保育開始ができるようお願いしたい。大潤保育園は、建設後33年経過した施設であり、低地に位置していることから排水状態が悪く、老朽化に拍車をかけている状況である。地域住民の強い要望で空き校舎を活用した移転・改修を旧恵山町で計画し、合併後の事業として主要施策3か年計画に位置付けられており、移転・改修に向けて協議検討を進めている。(答弁者 市長)

旧戸井町地域の公共下水道工事

金沢 恭平 議員
といグループ

問 旧戸井町地域の公共下水道は平成18年度に一部供用開始と聞いているが、合併前の事業計画の予定どおり、下水道整備は、平成21年度に整備が完了するの。また、事業計画に含まれ

障害のある児童等の普通学級への通学

志賀谷 隆 議員
公明党

問 学校が担う機能は、単に児童生徒に知識・技能を習得させるだけでなく、生きていくという社会的発達を援助する側面が、より重視されてきており、ここに、学校教育の大きな存在意義があると考え、現在、通常学級に通っている障害のある児童生徒の実態等はどのようになっているのか。

答 今年度就学した障害のある児童のうち、就学指導委員会で特殊学級等での指導が必要と判断された児童3名、通常学級に通いながら継続的観察が必要と判断された児童20名が通常学級に通っている。また、軽度発達障害の疑いのある児童生徒については、電話等での教育相談を受けており、各学校でその指導等について工夫をしている状況である。(答弁者 教育長)



南部下水終末処理場

ている新一見町、原木町地区などの今後の整備予定はどうなっているのか。
答 旧戸井町は平成12年に函館市と共同処理協定を結び、特定環境保全公共下水道として事業着手し、幹線管渠整備は、道の過疎代行事業、面整備は、町施行に引き続き市施行事業として平成18年4月の一部供用開始に向け整備を進めている。また、今後の整備については、新一見町、原木町地区を含め、平成21年度までに完了する予定である。(答弁者 水道局長)